

# 資格の大原

大原税理士受験生のための  
情報誌

# WIN

2023  
受験対策 Vol.6

Certified Public Tax Accountant  
information magazine

特集 1

今年のヤマ!!  
～本試験出題予想～

特集 2

社会保険労務士とは?  
～次の資格にチャレンジ!～



皆様の合格を心より  
お祈り申し上げます

税理士講座 職員一同

# 今年のヤマ!!

## ～本試験出題予想～

### 簿記論

#### (1)出題が予想される項目は？

近年の本試験は第一、二問では個別問題、第三問では総合問題の形式で出題がされています。

第一、二問では、簿記一巡（キャッシュ・フロー計算書を含む）、商品売買の記帳方法、純資産会計、リース会計、本支店会計、組織再編会計、連結会計（持分法を含む）、といった項目の出題が予想されます。また、昨年の本試験では近年公表された**収益認識基準に関連する出題**がありましたが、**連続での出題**も大いに考えられます。

第三問は比較的出題内容が安定しており、例年出題されている現金預金、債権債務、商品売買、固定資産、有価証券、各種引当金、税効果会計については本年も出題されると考えられます。

#### (2)どんな対応が必要？

第一、二問は簿記の基本である帳簿記入や最新の会計基準など、**幅広く出題**がされており、テキストや問題集、直前答練で掲載または出題されている項目は**仕訳、金額算定を網羅**する必要があります。なお、近年の本試験では1つの項目について**会計処理の異同、立場の違い、連年の会計処理**などが出題されているため、これらを意識して模擬試験等の対策を行う必要があります。

第三問の出題項目や出題傾向は安定しているため、毎年のように出題がされている項目は、**解答アプローチが瞬時にイメージ**できるように完成度を高める必要があります。

#### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

本試験で合格を勝ち取るためには**各項目について精度の高いインプットが必要**です。本試験までにすべての項目についてポイントを整理し、苦手項目をなくしていきましょう。特に、簿記一巡や本支店会計、連結会計など、配点が多めに割り振られるであろう項目については、出題された場合に大量失点しないようにしておきましょう。

しかし、インプットの精度を上げるだけでは合格答案は作成できません。簿記論の本試験は、毎年のように部分的に解答が困難なものが出題されており、どのように合格答案を作り上げるかという**アウトプットトレーニングが非常に重要**です。そのアウトプットトレーニングでは、合格するために正答すべき箇所はどこであるかを判断する力を養う必要があります。過去試験問題集及び直前答練の白星・黒星や正答率表などを参考にしながら、**各解答要求箇所がどのような局面で正答率が下がるのかを把握**しておきましょう。

また、得点する能力を鍛えるだけでなく、**失点しない能力**を鍛えることも重要です。自分がどのようなミスをするのかを把握して、**ミスの蓄積を行い、同じミスを繰り返さないように対策**をしていきましょう。

### 財務諸表論

#### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

##### ●理論

会計全般に関わる論点として、**概念フレームワーク**による「財務報告の目的」に沿った考え方、**会計観**（収益費用中心観・資産負債中心観）より導かれる**利益概念**（純利益・包括利益）や**資産・負債の評価**（原価・公正価値）についての考え方は個別論点にも結びつく非常に重要なポイントとなります。なお、個別論点として注目すべきものは以下のものとなります。

- ①**資産除去債務や退職給付会計、リース会計等の負債全般**
- ②**金融商品（発生・消滅の認識、有価証券やデリバティブ、ヘッジ会計等）**
- ③**事業用資産（棚卸資産、固定資産等）の基本的評価、収益性の低下、のれん等**

その他、出題サイクルや試験委員等を考慮すると企業結合会計・事業分離会計や連結会計、純資産会計、会計上の変更等会計なども出題可能性が十分にあり、昨年度も出題されている新会計基準としての「**収益認識に関する会計基準**」も目が離せません。また、企業会計原則を中心とした伝統概念（実現、発生、対応、配分等）について対策が必須です。

##### ●計算

本試験では総合問題が問われますが、個別論点は**過去の本試験で出題された内容**を踏襲したものが多くを占めます。**注記事項**等も含め、**基本的な内容でミスなく解答**できるかが重要です。また、差のつきやすい貸倒引当金や有価証券、棚卸資産、固定資産、退職給付、税効果会計等で得点できればとても有利となります。

#### (2)どんな対応が必要？

##### ●理論

合格するために必須となるのは、**問題文を読み取る力**とそれをアプトプットする**文章作能力**です。何を解答すべきかをその場で考え、判断できるかが近年の本試験では試されます。これを直前答練で練習していくことが非常に大切になります。なお、理解を問うための記号選択問題に対応する力は重要です。また、文章を作成する際にも、その文章のベースとなる内容の**正確な暗記（インプット）**は欠かせません。

##### ●計算

各種答練や総合問題解答時に、ミスしたところの原因を把握し、対策を考えてその後の問題解答時に実践することが重要です。この積み重ねが点数の安定につながります。なお、**見慣れない資料であっても問題文をよく読めば解答が導ける**場合が多いため、読み飛ばさないようにしましょう。また、問題解答後に効率的な順序で解答できていたか、時間配分は適切であったかなども振り返るようにしましょう。

#### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

##### ●理論

毎年広範囲に出題される傾向がありますので、もちろんヤマは重点的に対策する必要がありますが、それ以外の項目についても**網羅的に対策**をするようにしましょう。また、答練の問題と解答を横に並べ、問いとその解答をしっかりと結びつけ、本試験で同様の論点が出題された時にはすぐに対応可能な状態にしておくことがポイントです。

##### ●計算

まずは基本項目を固め、ボリュームのある問題に対する対応力をアップするために**実力判定公開模試の解き直しや見直し**を実施しましょう。並行して**表示面（表示区分や注記事項）**で忘れていた部分が無いか確認しておくようにしましょう。**過去試験問題**は上述したように、繰り返し出題されることが多いため、**解答後に複数回目を通す**機会を作るようにしましょう。

## 所得税法

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

#### ●理論

理論問題は、計算規定及び手続規定の本質的なものが中心ですが、近年では通達や判例、時事問題など特異な問題も出題される傾向にあります。

第73回本試験では、**収入金額(所得区分・所得金額・源泉徴収・課税方法)**、**株式等の配当・譲渡**、**所得控除**、**確定申告**、その他近年の改正項目について出題の可能性が高いと思われます。

出題形式は、**直接的に規定内容を問う問題**を中心としつつ、**自分の言葉で説明する必要のある問題**も予想されます。

#### ●計算

計算問題は、基本項目から難解な項目まで幅広く出題される傾向にあり、一部は実務色の強い論点が出題される傾向にあります。

第73回本試験では**総合問題形式**で、**不動産・事業・譲渡所得**を中心とし、所得控除から税額計算・税額控除まで**網羅的に出題**されることが予想されます。

### (2)どんな対応が必要？

#### ●理論

理論テキストどおりに高い精度で解答することはもちろん、**重要度の高い規定を優先して解答**する必要があります。また、問題によっては「概要」等で**解答の主旨を要約**することや、**事例に即した解答(事例分析)**を行うなどの対応力も必要です。

#### ●計算

計算問題を攻略するには、**難しい項目を回避し、基本項目で正解を積み重ねる**ことが重要です。また、理論・計算を合わせてボリューム過多となることも予想されますので、**時間配分や解答順序の適切な判断**が必要です。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

#### ●理論

**暗記の精度を高める**ことを前提として、**模擬試験の問題**や応用理論テキスト内の**過去試験問題**といった難易度の高いものに慣れておきましょう。また、解説にも目を通し、**出題の意図・解答の優先順位を理解**するように努めてください。他にも、解答ボリューム・所要時間が判断できるように、**実際に書く練習**も取り入れると効果的です。

#### ●計算

**実力判定公開模擬試験**や**総まとめ問題集**を通じ、基本項目の習熟度を向上させましょう。また、難しい項目に固執するのではなく、**基本項目のうち苦手箇所を克服**することに努め、**基本項目を正確かつスピーディーに解答**できるように練習してください。

## 法人税法

### (1)出題が予想される項目は？

理論問題は、別段の定め<sup>1)</sup>の意義関係、分析問題の他、法人税法第22条(所得金額)の問題について視野に入れておくべきです。具体的には、**同族会社**、**役員給与等**、**譲渡制限付株式**、**資産関係**、**リース取引**、**合併**を中心とした**組織再編税制**、**欠損金・含み損**を利用した**租税回避防止規定**、**外国法人**を使った**租税回避防止規定**、**法人税法第22条・22条の2・帰属**の出題が想定されます。また、近年の傾向である**用語の意義**、**法的な理由・考え方**、**事例分析**といった形式で問われると予想されます。

計算問題は、昨年久々に総合問題形式で出題されました。**社外流出項目なのか**、**留保項目なのか**の判断をできるようにして頂きたいと思います。また、一昨年以前はオーソドックスな項目の出題と特殊論点の組み合わせで出題されております。そのため具体的には**減価償却**(近年の改正項目である**少額減価償却資産**関連含む)、**繰延資産**、**交際費等**、**役員給与**、**圧縮記帳**、**受取配当**(みなし配当含む)、**所得税額控除**、**外国関係**、**資産の評価損益**、**自己株式関係**、**工事**、**リース取引**などの**頻出項目**を中心に、今年の改正項目の**試験研究費の特別控除**や、**昨年の改正項目である賃上げ促進税制**も問われる可能性があると考えられます。

### (2)どんな対応が必要？

理論については、まずは**用語の意義**、**適用要件(適用除外要件)**を中心に暗記の精度を上げることが必須です。また、昨年は理論問題として計算過程を問う問題が出題されましたので、**適用要件などを中心に計算項目との連動を意識して学習を進める**ことも必要です。解答作成にあたっては、**問題から想定される論点を幅広く捉え**、**続いてその中で要求されているポイントを的確に捉える**、といった意識を持つことが必要です。ご自身の中である程度**分析のパターン**を作り上げていくようにしましょう。そのことにより、結果として分析の精度とスピードが上がることになります。

計算問題については基本項目から難易度の高い項目まで幅広く問われることを前提にご準備ください。可否のポイントはいかに**正解数を積み重ねるか**です。**正解数を増やすためには確実に解答できる基本項目をミスなく解答**することが大切です。また、難易度が高い問題を全て捨てることはせずに、その中でも**解答できるものがないか粘って**ください。そこで1点、2点を拾えと大きなアドバンテージになります。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

理論は、理論テキストの**暗記は必須**ですが、それに加えて**各規定の適用要件を整理**しましょう。理論の丸暗記だけでは法人税法の試験は対応できません。各規定が「**要は●●**」といったように簡単に説明できるようにしましょう。その際の適用要件の整理にあたっては**理論テキストの読み込み**や**取引事例(直前対策テキストNo.1や実力判定公開模擬試験など)**から適用の可否を判断するポイントを確認しましょう。分析型の問題については、その**解答フォーマットを固める**こと、**複数規定列举型の論点については、各々列举できる状態**にしておくことが大切です。

計算は、**実力判定公開模擬試験**や**総まとめ問題集**を通じて基本項目の習熟度を上げましょう。過去に間違えた**問題・項目を優先して解答**するようにし、**苦手項目を克服**しましょう。その中でも、**実力判定公開模擬試験の正答率が高い項目を間違えた場合には、最優先で復習**を行いましょ

## 相続税法

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

#### ●理論

近年の改正項目を基とした事例問題の出題となっており、**全て事例問題**の出題が続いております。今年の本試験においても近年の改正項目である、**住宅取得等資金贈与、教育資金贈与、結婚・子育て資金贈与、個人の事業用資産の納税猶予**の事例問題の出題が考えられます。また、出題サイクルからは頻出項目である、**相続税の納税義務者、配偶者関連、延納、物納**も、事例問題での出題が考えられます。

#### ●計算

近年の問題に準拠した出題が予想されます。ボリュームが比較的多く、**宅地及び小規模宅地等の特例、取引相場のない株式**の出題を中心とした相続税の計算の問題となると思われます。ここ数回は**取引相場のない株式**の出題論点が少なめでしたが、**多くの論点が出題されると想定**しておきましょう。

### (2)どんな対応が必要？

#### ●理論

事例問題が前提でも**個別理論の暗記を徹底**してください。根拠規定の**理論の暗記精度が合否を分けます**。**事例問題対策**として、個々の理論の内容理解を進めるとともに、**概要説明及び根拠規定の書き方の形式面**も確認しましょう。規定ベースの応用理論も**過去の頻出理論**（配偶者関係、小規模宅地等の特例などの課税価格及び税額計算関係、延納物納など）を中心に確認しましょう。この規定ベースの応用理論対策も**事例対策に繋がる知識**となります。

#### ●計算

既学習項目は悩まずに解答できるようにしましょう。相続税法の本試験は**ミスをせずに得点できる所を確実に得点することが重要**です。その上で**難解な項目や、多く時間が取られる項目（取引相場のない株式を除く。）**の**取捨選択**を意識して基礎項目での得点の積み上げを意識していきましょう。また、各論として**配偶者居住権等の計算、取引相場のない株式の評価**は強化しておきましょう。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

#### ●理論

**改正が関連する理論**は、優先的に確実に暗記を行いましょう。また、他の理論も全体的に**高い精度での暗記が必要**です。同時に**個々の理論の内容理解**を進めて**事例問題対策**を並行して行えると良いです。

#### ●計算

難解な問題を追いかけすぎず、定期的に解く総合問題や答練を通じて**基礎部分での「ミスした部分」「正答したが、悩んでしまった部分」**の復習を徹底しましょう。**本試験まではすべてが弱点を補強する機会**とし確実に復習していきましょう。基礎項目が固まれば取捨選択の判断もできるようになります。

## 消費税法

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

#### ●理論

##### (1)個別（複合）問題

- ・課税の対象、国内取引の判定、非課税、輸出物品販売場における免税
- ・高額特定資産を取得した場合等の納税義務の免除の特例
- ・納税地
- ・仕入れに係る消費税額の控除
- ・居住用賃貸建物を課税賃貸用に供した場合等の仕入れに係る消費税額の調整
- ・中小事業者の仕入れに係る消費税額の控除の特例（簡易課税制度）
- ・適格請求書発行事業者の登録に関する経過措置など

##### (2)事例問題

- ・取引関係
- ・申告、届出、申請等の手続き

#### ●計算

- ・二問形式（原則計算、簡易課税制度、その他個別論点）
- ・製造業、不動産業、飲食店業、飲食料品販売業
- ・調整対象固定資産、居住用賃貸建物に関する取扱い
- ・軽減税率

### (2)どんな対応が必要？

理論対策は、**暗記の定着**を図るとともに、テキストの解説を確認し、規定の**理解度を向上**させましょう。また、過去試験問題や模擬試験を通じて、**読解力の向上**を図りましょう。どの規定の理解度を問う問題なのか、**出題テーマを把握**することが適切な解答に繋がります。**インプットとともにアウトプットのトレーニング**を行いましょう。

計算対策は、**スピードと正確性を向上**させましょう。いずれも**判断根拠や取扱いなど知識面の定着度合い**が影響しますので、**テキスト掲載の各項目を確実に定着**させることが重要です。また、完答できないことを想定し、理論との**時間配分**を考慮しながら**取捨選択の視点**をもって総合問題の解答練習を行いましょう。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

理論は、**幅広く出題される傾向**にあることから、**満遍なく学習**する必要がありますが、**出題回数が多い規定や近年の改正規定**は、出題可能性が高いものとして優先的に仕上げましょう。

計算は、テキスト掲載の各項目が確実なものとなるよう**未定着の項目を中心に学習**を進めてください。

前述の内容を踏まえて、模擬試験に向けて準備を行い、**模擬試験を必ず受験**しましょう。

## 固定資産税

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

- ・理論については、近年出題されていない「**宅地の課税**」「**農地の課税**」といった税額算定方法の規定が挙げられます。また、「**課税客体**」や「**納税義務者**」といった基本項目のほか、頻出理論である「**閲覧制度**」「**縦覧制度**」をはじめとした情報開示制度も要注意です。
- ・計算については、「**農地**」の計算がまず挙げられますが、次いで「**区分所有家屋以外の家屋及びその敷地**」「**大規模の償却資産**」「**船舶の配分**」「**償却資産の評価**」といった項目も外すことはできません。また、「**区分所有家屋の補正**」「**特定共用土地の二号イ**」については近年出題されておらず、出題された場合は難易度も高めになることが予想されますので抜かりなく対策しておきましょう。

### (2)どんな対応が必要？

- ・理論については、**理論テキストの暗記**と併行して「**直前期の模擬試験**」「**応用理論テキスト**」を題材に内容理解を深め、残り時間に応じた解答の仕方なども想定しておきましょう。
- ・計算については、「**過去試験問題集**」「**直前期の模擬試験**」「**総まとめ問題集**」はすべて解答することを必須として総合問題の解答練習を積んで下さい。なお、今年度は改正による変更箇所がありませんので、上記教材に加え「**計算問題集1、2**」の総合練習問題や「**確認テスト**」の解き直し、外販教材の「**総合計算問題集**」なども練習材料として使用できます。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

直前期は理論暗記に時間を取られがちになる方も多いのではないかと思います。やはり**計算の精度の高さは必要**ですので、計算練習も怠らないことを前提としながら理論暗記の時間を確保しましょう。

## 国税徴収法

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

理論については、**近年の改正項目**が出題の可能性が高い項目と考えられます。第二次納税義務に関しては**無償又は著しい低額の譲受人等の第二次納税義務**、換価配当に関しては**暴力団員等に該当しないこと等の陳述、公売実施の適正化のための措置**、その他の項目に関しては**不服申立てと国税の徴収との関係及び滞納処分を免れる行為に対する罰**は、必ず暗記しておきましょう。

改正点以外の項目については、出題頻度の高い**各種財産の差押手続に関する項目**について、確認をしておきましょう。

計算については、**テキストレベルの論点**について万遍なく対策を立てておいてください。

### (2)どんな対応が必要？

理論については、すべてのエリアから出題されることを前提にして、各エリアで出題の可能性の高い理論から、優先的に暗記の精度を上げましょう。しかし、**一字一句の暗記が必要**というわけではなく、**制度趣旨等を理解したうえで、内容をしっかり説明できるように学習を進めてください。**

計算については、令和3年度に久しぶりに出題されましたが、特殊な論点は合否への影響はありませんから、**計算問題集で基本的な問題の演習を行っておきましょう。**

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

近年の本試験問題は、多くが事例形式で出題されています。**合格するためには、読解力を磨くことが必要**です。応用理論テキストと過去試験問題集を実際に解答してみましょう。これらの教材は、**解答を暗記する教材ではありません**。**読解力を磨くための教材として利用してください。**

## 酒 税 法

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

理論については、出題サイクルから「**納税の担保**」の出題可能性が比較的高いといえます。また、重要・頻出項目の「**酒税額の控除等**」「**輸出免税**」「**未納税引取**」「**酒類の製造免許**」の出題も想定できます。なお、「**納税義務の成立**」「**申告・納付等**」は、いつ出題されても対応できるように対策しておく必要があります。

計算については、試験傾向は比較的安定していますので、**過去の本試験と同様の出題**が予想されます。

### (2)どんな対応が必要？

理論については、近年は「趣旨」が問われる傾向が非常に強く、「**制度全般に係る趣旨**」とともに「**個別規定に係る趣旨**」も確認を怠らないようにしてください。また、近年では**事例形式**の出題も頻出していることや、**過去の本試験問題の類似問題**も繰り返し出題されていることにも注意が必要です。

計算については、**過去試験問題対策**が先決といえるでしょう。また、本試験では高得点が望まれ、年度によっては最終値を合わせることが必須といえることもありますので、**ケアレスミス**をしないことが非常に重要です。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

理論については、あまり出題予想にこだわらず、**個別理論全般**について**暗記の完成度**を高めておくことが必要です。また、「**主語、要件、結論等**」を意識し**根本的な理解**を心掛けるとともに、「**制度全般に係る趣旨**」「**個別規定に係る趣旨**」について理解と暗記を十分に行ってください。**事例形式などの応用理論問題**への対策も忘れずに行ってください。

計算については、**各項目の内容把握、本試験を意識した演習**（過去試験問題や模擬試験）、**ケアレスミス**の防止に努めましょう。

## 事 業 税

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

理論は、個別的な論点として「**課税標準の算定方法**」「**是正措置**」「**法人事業税の申告納付制度**」の出題が想定されます。

本試験では必須である「**外形標準課税**」は個別理論の他、事例形式の応用理論として「**外形対象法人の課税標準・税額算定**」の出題が想定されます。また「**個人事業税の税額算定**」「**個人事業税の申告・賦課・徴収**」等の理論項目も要注意です。

計算は、今年も「**外形標準課税**」の出題が想定されます。その他は「**個人事業税の税額算定**」や「**収入金額課税法人**」「**鉄軌道事業**」等も要注意です。

### (2)どんな対応が必要？

基本的な内容である一方で解答量の多い出題が続いているため、**限られた時間内で、解答の正確性とスピード**が求められています。普段から**時間を計った反復練習**を行い、時間に対する感覚を磨いてください。

また、理論は、**優先順位の高いものから解答骨子を挙げられるか**が重要となります。1つの内容を深く解答しすぎずに、**万遍なく解答することが必要**です。計算は、**転記ミスや電卓ミス**などなく**正確に計算できるか**が**合格のカギ**です。制限時間の中で、**最大限の結果**を出すことが求められています。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

理論・計算ともに「**所得割**」「**付加価値割**」「**資本割**」「**収入割**」「**個人事業税（青色・白色）**」「**分割基準**」の主要項目を中心に知識の整理をし、解答の精度を上げるように、しっかり復習しましょう。

## 住 民 税

### (1)出題が予想される項目は？(理論・計算別)

#### ●理論

住民税の理論問題は、①一定の周期で繰り返し出題される住民税独自の論点と②近年の改正論点に大別されます。①の今年のヤマとしては、**個人の均等割、個人の申告義務、分離課税に係る所得割、給与所得者の特別徴収、寄附金税額控除**が挙げられます。②については、令和5年度の改正論点として**損失の繰越控除、改正後未出題の論点として法人の特定寄附金税額控除**に注意が必要です。

#### ●計算

高い確率で**個人住民税の総合問題**が出題されるでしょう。テキストに掲載されている論点から満遍なく出題されますので、**ヤマを張らずに全ての論点を潰**してください。

### (2)どんな対応が必要？

#### ●理論

**暗記を徹底**することが大前提です。その上で、①住民税独自の論点はある程度パターン化されていますので、**過去試験問題集で出題パターンを把握**してください。②改正論点は**直前期以後の講義で紹介する論点や各種模擬試験で出題する論点**に注目してください。

#### ●計算

単に問題を解くのではなく、例えば**解答時間を意識**したり、**答案用紙の使い方、メモ書きを工夫**したりと**目的意識を持って取り組んで**ください。また、答え合わせ後は**ミスをした箇所の原因を分析し、対策を講じて**おきましょう。

### (3)本試験までに優先的に学習するポイントは？

理論は**暗記の精度を高めること**、計算は**個人分野のテキスト項目を全てマスター**することが最優先です。また、各種模擬試験を通じて**解答スピードを上げる練習や解答順序及び時間配分の研究**に充ててください。

# 次の資格へチャレンジ！

## ～社会保険労務士編～

近年、税理士の受験が終わった後に社会保険労務士の資格取得を目指される方が多くいらっしゃることはご存知でしょうか。税理士は労務に対する知識も必要との考えもあり、社労士資格にチャレンジする方が多くいるのだと思います。いきなり社会保険労務士と言われてもピンとこないと思いますので、今回は社会保険労務士講座の先生にご協力いただき、社会保険労務士に関する内容をご紹介します！

**Q** 社会保険労務士とはどのような資格ですか？

**A** 社会保険労務士とは、労働法や社会保険に関する専門家です。会社内では人事労務管理を行う部署での活躍が期待され、独立開業する際には、社会保険労務士法人の設立や社会保険労務士事務所を起ち上げることが可能です。

**Q** 税理士と組み合わせで取得するメリットがあれば教えてください。

**A** 会社の給与計算業務では必ずと言っていいほど社会保険料の控除や時間外労働、深夜労働による割増賃金の計算が求められます。税理士の資格と社会保険労務士の資格の組み合わせにより、抜けのない正確な給与計算を行うことができ、顧客にワンストップでのサービスを提供することが可能となります。

**Q** 次に社会保険労務士の試験日程、試験科目、出題形式、合格点、近年の合格率などを教えてください。

**A** 社会保険労務士試験は**例年8月下旬の日曜日に実施**されております。試験科目は以下のとおりです。

＜試験科目＞

労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、雇用保険法、労働保険徴収法、労働に関する一般常識、健康保険法、国民年金法、厚生年金保険法、社会保険に関する一般常識

＜出題形式＞

選択式及び五肢択一式 ※いずれもマークシート

＜合格点＞ ※令和4年度

選択式：総得点27点以上かつ各科目3点以上

択一式：総得点44点以上かつ各科目4点以上

＜合格率＞ ※令和4年度

5.3%

※参考：令和3年度7.9%、令和2年度6.4%、令和元年度6.6%

**Q** 社会保険労務士の学習スケジュール（開講日、学習期間）を教えてください。

**A** 5月～翌2月まで開講がございます（学習期間は開講～本試験日までの期間となります）。税理士試験が終わった後であれば、勉強習慣をそのままに9月開講からのスタートが最もお勧めです。

Q

受験経験者コースも含めた大原で開講している商品情報を教えてください。

A

商品の価格帯は、79,800円～となりますので安価に学習を始めていただくことが可能です。コースと開講月は以下の通りとなります。なお、最新の商品情報は大原のホームページをご確認ください。

＜初学者向け＞

社労士24（例年本試験後より開講）

社労士24+直前対策（例年本試験後より開講）

社労士合格コースinアドバンス16

（例年5月、6月開講）

社労士合格コースinアドバンス9

（例年7月、8月開講）

社労士合格コース（例年9月～11月開講）

社労士速修合格コース（例年1月、2月開講）

＜受験経験者向け＞

社労士24（例年本試験後より開講）

社労士24+直前対策（例年本試験後より開講）

社労士合格コース（例年9月～11月開講）

必勝リスタート講座+社労士経験者合格コース

（例年9月開講）

社労士経験者合格コース（例年10月開講）

社労士速修合格コース（例年1月、2月開講）

社労士合格コースは、受験経験者で基本事項に不安のある方にもお勧めのコースとなります。社労士24及び社労士24+直前対策は、お仕事などでお忙しい方であっても、短くまとまったINPUT講義を繰り返し学習していただくことができます。（税理士の時間の達人シリーズをイメージしていただくと良いと思います。）

＜社労士24のサンプル等＞

[https://www.o-hara.jp/course/sharoshi/sha\\_other\\_01](https://www.o-hara.jp/course/sharoshi/sha_other_01)

Q

どのように学習を進めていけば良いでしょうか。

A

税理士試験と同じように、まずは講義を休まずに視聴（出席）することが重要です。講義後の復習は、知識を定着させるためにテキストを読むこと、問題集（過去問中心）を解くことを繰り返します。科目数が多いこと、覚えることが多いことが特徴の試験となりますので、勉強時間によって他の受験生と差がついてしまいます。通勤時間や会社のお昼休みなどの細切れ時間を有効活用していただき、まずは1日2～3時間の学習時間を確保することから始めていただくことをお勧めいたします。

Q

最後に一言お願いします！

A

働き方改革や新型コロナウイルス感染症により、世の中の働き方は大きく変わってきました。人事労務のスペシャリスト資格である社会保険労務士は今後必ず皆様のお仕事で役に立つはずです。税理士との相性は抜群であると言えますので、ダブルライセンスで活躍できること間違いなしです！

ありがとうございました。

# O-HARA Career Staff

## 夏は就職・転職のチャンス!!

税理士業界では、採用活動が活発に行われる時期があります。それは夏と冬です。特に夏是一年の中で一番の盛り上がりとなります。その理由と夏の活動に向けた準備の進め方をお話します。

### 夏が盛り上がる理由

夏の採用活動が一番盛り上がる大きな理由のひとつは、税理士試験を終えた受験生が就職・転職活動を始めからです。その動きに合わせて求人・採用活動が活発になります。

大手税理士法人などでは、9月入社を推奨しているところも多くあります。例えば大学を卒業して4月から働き始めると、休日や仕事を終えてからでないと勉強時間が確保出来ないの、大事な直前期に勉強に割ける時間はどうしても減ってしまいます。

また、4月はまだ業務が立て込んでいる時期でもあるので、現場の職員の方は自分の業務をこなしながら新人研修を行わなければなりません。そういった理由もあり9月の入社を勧めています。

### 夏の活動に向けた準備と進め方

試験の直前はやはり、勉強に集中したい（していただきたい!）と思いますので、合間の時間を使ってちょこちょこ準備を進めていきましょう。

「履歴書」の作成から始めると進めやすいと思います。

#### ①履歴書

フォーマットがある程度決まっているので、まずは必要事項を記載していきます。気をつける点は、入学・卒業の年度や資格取得年度などです。記憶に頼らず、証明書などをきちんと確認して正確に記載しましょう。

一番手間のかかる志望動機や自己PRは、いきなりきれいな文章にまとめようとせず、思いついた時に文章を書き溜めておいて、ある程度溜まってきたら、それをまとめて作文すると作りやすいかと思います。

貼付する写真は撮影日から期間が空いていない方が良いので、応募する直前で構いません。

#### ②職務経歴書

社会人経験がある方は職務経歴書の作成も必要になります。履歴書と違って書き方の自由度が高いので、作成に多少時間を要するかもしれません。

自分の書きやすいフォーマットを見本などから選び、自分のエピソードに書き換えていくと作成しやすいと思います。

#### ③情報収集

可能であればセミナーなどに参加し、税理士業界の就職・転職に関する情報を手に入れましょう。

セミナーでは、1時間程度で税理士業界の就職に関する情報を聞くことが出来るので、自分でインターネットを使って色々検索するよりとても効率的です。

また、専門のコーディネーターやコンサルタントに相談して、どんなところが自分に合っているのかアドバイスを受けると方向性が絞り込みやすくなります。大原キャリアスタッフが発刊している「就職情報誌Win」では、たくさんの求人情報をこの一冊で見ることが出来るので、是非手に取ってみてください。

税理士試験後～結果発表までの期間は採用情報がたくさん出てきますので、積極的に活動してみてください。

こまったときは!!

一人で悩まずに就職・転職サポートのプロ、大原キャリアスタッフへご相談ください。



就職・転職に関するご相談は

大原キャリアスタッフ

<https://www.o-hara.ac.jp/career/>

※エリアによりサービス内容が異なります。

次回の2024年受験対策Vol. 1号は9月発刊の予定となります。

WIN

ウィンVol.6  
●第27巻第6号通巻229号 ●2023年6月24日発行  
●発行所/大原簿記学校 〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10



最新の受験情報満載!

大原の税理士メルマガ 毎月無料配信中!

メルマガ登録はこちら→<http://www.o-hara.ac.jp/goukaku>

大原 メルマガ 検索